

「事業名:災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」 2021年度補助事業の実績・成果

長崎大学(共同申請:福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学)

連携市町村:川内村、富岡町、大熊町

連携市町村との協定締結日:平成25年4月20日(川内村)、平成28年9月30日(富岡町)、令和2年7月30日(大熊町)、令和3年12月1日(双葉町) 現地拠点:福島県双葉郡川内村大字上川内字小山平15-1/富岡町大字本岡字王塚622-1/大熊町大字大川原字南平1717

事業のポイント

長崎大学が復興推進拠点を設置している川内村、富岡町や大熊町において、福島県立医科大学や福島大学、東日本国際大学といった福島県下の大学、さらには国際放射線防護委員会や世界保健機関といった国際機関と連携して世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築します。

今年度の活動実績

1. 川内村、富岡町、大熊町に加えて、双葉町と連携協定を締結し、双葉町の復興支援を本格化する基盤を整えました。
2. 福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学と連携して、福島県下の学生、福島県外の学生を対象とした被ばく医療学、環境放射能学や福島復興学に関する集中セミナーを開催し、知の交流を深めました。
3. 世界各国の災害・被ばく医療科学の研究者が参加した国際セミナーを川内村・富岡町からオンラインで発信しました。
4. 原発関連企業や原発立地自治体職員の方々に向けて「原子力災害復興セミナー」を開催して、放射線被ばくと健康影響の知識に加え、原子力災害に対する自治体の備えや福島第一原子力発電所の廃炉・処理水管理状況など福島の経験を発信しました。
5. 動画コンテンツ「長崎大学×富岡町「原子力災害からの復興」その歩み」を作成し、セミナーの教材として活用すると同時に動画サイトにも公開しました
(<https://www.youtube.com/watch?v=fK098hd6ySE>)。



今年度の成果

上記のような取り組みを行うことで、福島県浜通りを「災害・被ばく医療科学」のグローバル人材を育成し、「復興知を学ぶ」知の交流拠点にする、という目標を前進させることができました。今後もプログラムコンテンツをより充実させ、浜通りでの人材育成に尽力していきます。